平成２８年度あわら市芦原中学校学校評価書

○：目標を５ポイント以上上回っている　▼：目標を下回っている

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	回答者	目標指数	結果	成果と課題	改善策・向上策
学習指導	個に応じた指導と学ぶ楽しさを実感できる授業研究に努め、基礎的基本的な学力の定着と向上を図る	**①よくわかる楽しい授業を工夫する**	主体的な学びを支援する教材研究に取り組んでいる（取組指標）	教職員	90%	90%	・ＩＣＴを活用した教材研究の推進が、生徒の主体的な学びに結びつき、目標指数に達している。 ・ＩＣＴ環境が整備され、デジタル教科書や電子黒板、動画を用いたまとめ学習は意欲的な学びにつながった。今後、意欲面だけでなく、学習の深まりや広がりに対する意識向上も目指していく必要がある。 ・学年通信における授業の様子の説明や生徒の感想を載せることで、保護者の学校での学びに理解が深まったと考えられる。	・略案を用いた授業を互いに参観し合い、生徒の変容を見取る。変化を促した要因を話し合い、共有することが大切である。 ・主体的な学びを意識した授業の感想を集め、生徒の意欲を引き出す手立てについて研修を深めていく。 ・保護者への学校開放だけでなく、指導主事訪問の様子や生徒の授業の感想をまとめた通信を発行したり、ホームページを活用したりして保護者に生徒の学びの様子を発信していく。
			意欲的に授業に取り組んでいる（成果指標）	生徒	80%	○91%		
			子どもは意欲的に授業に参加している（満足度指標）	保護者	80%	○87%		
		②反復学習による基礎基本の定着を図る	計画的に反復学習を実施している（取組指標）	教職員	90%	90%	・昨年に引き続き、集会時の学習指導や掲示物などを用いて、反復学習の大切さを啓発してきた。家庭学習で基礎・基本の定着が図れるような学習法の指導や、課題の工夫が必要である。 ・授業や朝学習で小テストやミニプリント等に取り組み、反復学習を行ってきた。また、月曜日のUPテストの実施により、国・英・数の基礎・基本が身についたと感じている生徒・保護者の割合が昨年より増加しており、継続していきたい。	・朝学習の時間を有効的に使うため、各学年、各教科で検討し、効果的な取組ができるようにする。 ・学習の内容が定着するよう学習会や補充の時間を確保する。間違えた問題や苦手な問題を家庭学習でも復習させるなど、自主的な学習の取組への指導を強化していく。 ・UPテストに向けての学習の仕方を今後検討し、対策の時間を多くとり、苦手意識をもつ生徒にも「やればできる」という達成感を味わえるような課題の設定や、個別指導を心がけていく。
			反復学習を通して基礎・基本が身についた（成果指標）	生徒	80%	84%		
			反復学習は基礎・基本の定着に効果的である（満足度指標）	保護者	80%	84%		
		③家庭学習の習慣化を図る	適切な内容と量の家庭学習を計画的に提供し、点検指導している（取組指標）	教職員	90%	▼84%	・家庭での課題の量を考慮し、内容を工夫すること、教員が細かく点検することなどにより、課題提出率がよくなった。 ・家庭学習に十分に取り組めない生徒については、個に応じた適切な内容と量の課題を提供していく必要がある。 ・家庭学習に対する生徒の意識が、昨年度に比べ10%以上大幅に向上している。 ・「to22宣言」の取組が浸透し、家庭学習の時間確保ができるようになり、学習時間が増えたと保護者が感じていると考えられる。	・今までの取組を継続させる。また、進路学習、集会での話や講演会、学習に関する教育相談など多方面からの働きかけも継続する。 ・効果的な学習方法について学級活動の時間等で考えさせ、話し合う機会を設ける。また、学習掲示板を活用し、よい実践例を紹介する。 ・時間の使い方について、ライフの生活時間帯やテスト前の学習計画表の記入指導を通して、家庭との連携を図る。
			課題や宿題を期日までに仕上げている（成果指標）	生徒	80%	○88%		
			子どもは、家庭学習にしっかり取り組んでいる（満足度指標）	保護者	70%	74%		
		④読書活動の充実を図る	朝の読書活動や休憩時間、授業での取り組みを通して、生徒の読書活動が充実するように支援している（取組指標）	教職員	80%	▼76%	・本の紹介、イベントの企画、読み聞かせ、掲示板の有効活用などをして、図書館の利用を促した。昨年度の生徒の貸出平均が８冊であったが、今年は11冊になり増えている。しかし目標指数には及ばないので、学級担任、教科担任から、適宜指導していく必要がある。 ・学年によっては、朝学習で読書時間を十分に確保できなかったことも考えられる。 ・生徒が質問事項の内容を的確にとらえていなかったのではないか。	・朝学習での読書活動の時間を確保、読書習慣を継続させる。 ・修学館だよりなどによる啓蒙活動を保護者まで普及するようにする。 ・生徒の読書に対する興味、意欲、能力などの実態を考慮し、選書、紹介、イベント企画に取り組む。 ・各教科の授業計画案に本の紹介の欄を作り紹介する。 ・次回のアンケートでは生徒に把握しやすい質問事項にする。
			朝の読書活動や休憩時間、授業での取り組みを通して、多くの本を読むことができた（成果指標）	生徒	80%	▼35%		
			子どもは、図書室や図書館を利用してよく読書している（満足度指標）	保護者	70%	▼47%		
道　徳 人権教育	心に響く道徳授業の工夫と充実に努め、体験活動を通して他を思いやり尊重する豊かな心の育成を図る	**⑤いじめ・不登校防止のきめ細かい指導と対応に心がける**	いじめ・不登校防止の指導に努め、早期発見・早期対応を図る（取組指標）	教職員	90%	○95%	・日頃、生活日誌や会話を通して生徒とのコミュニケーションを図り、また定期的に教育相談・いじめアンケートを行い、不登校・いじめ防止を心がけた。 ・いじめ対策委員会を設定し、早期発見早期対応に努めた。 ・各学年・学級で親睦が深められる活動を積極的に行い、よりよい人間関係の構築を図った。情報モラル教育を推進した。	・新学期のはじめに全学年対象の情報モラル教育を推進し、生徒間のトラブルの未然防止に努める。 ・今年度の取り組みを継続し、学校内外のすべての活動等で指導・支援をしていく。 ・いじめ、不登校対策サポート班で早期対応ができるようにする。教職員の連携を密にし、保護者や関係機関との迅速な連携を図りながら不登校、いじめ防止の取り組みを強化する。各学年クラスの実情に合わせ、適宜教育相談の充実を図る。
			いじめ防止の指導を受けて自分でもなくすよう心がけている（成果指標）	生徒	90%	○96%		
			子どもに思いやりの心が育っている（満足度指標）	保護者	80%	○95%		
		⑥心に響く道徳教材の工夫と活用を図る	心に響く道徳指導を工夫して実施している（取組指標）	教職員	80%	○85%	・全学年で道徳の研究授業を実施した。各担任がいずれも工夫を凝らした道徳授業に取り組むことができた。 ・資料「ふるさと福井の先人100人」を用いて、朝読書などにも活用するなど、各学年で特色ある取組を行うことができた。 ・「親子で学ぶ道徳講座」の一環として、地域人材を招聘したり、拉致被害者を救う会の方の講演会を開いたりと、人権意識を高める道徳関連行事を行った。その成果が現れ、目標指数よりも高い結果を得ることができた。	・学年及び学校全体で共通した取組を継続する。そのためにも，職員会議での提案の仕方や、オリジナルの教材を共有する方法について工夫する。また、授業後に教員間で意見交換や情報共有する時間をもつ。 ・道徳の時間での取組の様子を振り返るため、生徒の感想を掲示することにより、学級や学年全体に還元し、集団の道徳実践力の向上につなげていく。 ・人権週間の取組を振り返り、今後さらなる人権意識の涵養を目指して内容を工夫・改善する。
			道徳の時間に自己を見つめ生き方を考えることができる（成果指標）	生徒	80%	○92%		
			子どもに道徳的な心情や態度が育っている（満足度指標）	保護者	80%	○91%		
		⑦感動する体験活動の導入による実践的態度の育成を図る	体験活動を実施し、思いやりの心を育んでいる（取組指標）	教職員	90%	○95%	・福祉体験や職場体験、アルミ缶回収、校外体験学習を通して、勤労の尊さや意義、奉仕の精神、差別や偏見のない社会の実現、自己理解や他者理解、よりよい集団作りを目指して継続的に取り組んできた。また、各教科活動において地域を絡めた体験活動（赤ちゃん抱っこ体験教室や保育実習など）を取り入れたり、地域の人材をゲストティーチャーとして招き、生徒の実践的態度の育成を図ることに努めた。	・今年度の取組を継続する中で、生徒の実態を考慮しながらよりよい体験活動を推進していく。他者との関わりの中での学びを大切にし、学んだことをその後の実生活に活かすことができる指導を全教育活動の中でさらに充実させていく。 ・地域と進める体験事業を積極的に推進していくことに努める。 ・ボランティア活動や奉仕活動を取り入れ、実践的態度の育成を充実させる。
			体験活動を通して、他を思いやることができるようになった。（成果指標）	生徒	90%	○97%		
			子どもはさまざまな活動に前向きに取り組んでいる（満足度指標）	保護者	80%	○88%		

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指数	回答者	目標指数	結果	成果と課題	改善策・向上策
特　活 進路指導	集団の中でよりよく生きようとする自覚を高め、望ましい進路選択に向けて努力する態度の育成を図る	**⑧集団の中で個が生きる学級経営と部活動を推進する**	一人ひとりが生き生きと活動できるような学級活動を進めている （取組指標）	教職員	90%	▼79%	・教職員の目標指数が低いのは、進路学習や学校行事の準備など、学校・学年単位での活動が多かったこと、また、ふるさと希望学や古典暗唱ノートなど、県からの依頼事項が多く、学級での時間を十分にとることができなかったことが原因だと思われる。一方、生徒の多くは、それらの活動にも達成感を感じていることがわかる。	・グループワークトレーニングやエンカウンターなど、集団生活のスキルを磨く活動や、学級の諸問題を生徒自身で話し合う時間の確保に努めたい。また、今後も生徒に活動の場を与え、主体性やリーダーの育成に努めたい。
			学級の中でみんなと協力し、活動できたと思う （成果指標）	生徒	80%	○91%		
			子どもは家庭で学級（学校）内の様子や部活動のことをよく話す （満足度指標）	保護者	80%	▼75%		
		⑨小中連携と中高一貫教育の取組を生かした進路意識の向上を図る	学年の発達段階に応じた進路指導の取組を工夫している （取組指標）	教職員	100%	100%	・学年（発達段階）に応じた系統的な進路学習（職場体験、進学指導など）を進め、適切な職業観や勤労観、目標に向かって前向きに努力する大切さなどについて考えさせる中で、進路意識の向上を図り、自分自身の生き方を考えることができるように心がけた。 ・本校の特色である中高一貫教育については、生徒への啓蒙活動に加え、夜の保護者説明会の開催により、より広くその取組について理解されたと思われる。 ・中１ギャップの解消に向けた小中連携では、児童生徒の交流だけでなく、保護者への説明をさらに充実させることが必要だと思われる。	・総合的な学習の時間だけではなく、教科の授業や道徳など教育活動全般において、自分の生き方について考える機会を与えられるような指導のあり方、教材の選定などを工夫する。 ・自らの将来の夢や希望をもてるような取組（地域人材を活用した講座など）を積極的に行い、生徒の進路意識を高めていく。 ・今後も中高一貫教育の取組や進路指導について、保護者への広報活動を継続して行う。また、小中連携においても広報活動を行うようにする。
			将来の自分の進路について興味・関心が深まる （成果指標）	生徒	80%	○91%		
			子どもが将来の進路について興味・関心を深めていると感じている （満足度指標）	保護者	70%	○79%		
生徒指導	家庭や地域との連携の上に立って生徒理解を深め、一人ひとりの個性や能力を生かし伸ばす工夫や手だてを図る	**⑩「共感する」「励ます」「ほめる」を基本姿勢に生徒の「やる気」を育成する**	生徒の個性や長所に目を向け、温かい言葉かけができた （取組指標）	教職員	90%	○100%	・生徒理解に努め、個に応じた指導を心がけてきた。よい行動や態度は、学級や全校集会等でほめ、やる気を喚起させてた。 ・生徒の個性や長所を引き出す言葉かけ等を通して、生徒一人ひとりが芦原中の生徒であることに誇りを持ち、諸活動に積極的に取り組む手立ての継続が課題である。 ・ハートフル活動を通して、生徒間で個性や長所を認め合うことができた。	・学級や集会（学年・全校）等で、「ほめる」「励ます」を心がけ、さらなるやる気を喚起する。 ・生徒一人ひとりへの目配り気配りを心がけ、学校の諸活動に積極的に取組む工夫や手立ての充実を図る。 ・小中連携及び家庭や地域との連携を図りながら、よりよく生きる力を育成する。 ・引き続きハートフル活動の情報共有化を図る。
			先生の言葉かけによって励まされている　　（成果指標）	生徒	80%	○90%		
			先生の言葉かけによって子どもは励まされている （満足度指標）	保護者	80%	○87%		
		⑪家庭や地域との連携・協力を一層深める手立ての工夫を図る	生徒理解を進める上で、家庭や地域との連携・協力に心がけて指導している。 （取組指標）	教職員	90%	○100%	・生活日誌や日々のコミュニケーション等を通して生徒理解に努め、必要に応じて保護者との電話連絡や家庭訪問を行い、連携を深めた。 ・学年通信等で情報提供等が確実にできた。	・生徒一人ひとりの理解に努め、家庭や地域との連携も深めながら、望ましい人間形成を行えるよう、全職員の共通理解の下、指導徹底を図る。 ・地域に愛される学校づくりを目指し、生徒及び教職員が諸活動に精力的に取り組む。
			学校からの連絡やお知らせで、学校のことがよくわかる （満足度指標）	保護者	70%	○79%		
健　康 安全教育	食生活や心身の健康について理解を深め、安全で活力ある生活を送ろうとする自覚や態度の育成を図る	**⑫「早寝」（十分な睡眠）「早起き」「朝ごはん」運動を推進する**	「早寝」「早起き」「朝ごはん」の指導と働きかけを行っている （取組指標）	教職員	80%	○85%	・教職員・生徒・保護者とも目標指数を上回った。生活習慣を意識した学級指導や保健指導の成果と思われる。 ・保健指導で睡眠と身長との関連を指導した後からは、早寝を意識したと思われる生徒が増えた。 ・食育教室で栄養教諭の講座後は、朝食に関心を示す生徒が多かった。 ・「to22宣言」の活動が３年目になり、徐々に浸透してきている。	・生徒の意識を高めるため、外部講師を招いての眠育指導や、食育教室の継続を図る。 ・なぜ「早寝早起き朝ごはん」が大切か、各教科の中で科学的知識を取り入れながら、基本的生活習慣の確立を目指す。 ・「to22宣言」のさらなる啓発を行う。
			「早寝」「早起き」「朝ごはん」運動を実践している （成果指標）	生徒	80%	○85%		
			子どもは「早寝」「早起き」「朝ごはん」運動を実践している （満足度指標）	保護者	70%	○77%		
		⑬「目のプロジェクト」を推進する	「目の健康を守る３カ条」を意識して実践している （取組指標）	教職員	80%	○95%	・教職員・生徒は９０％を超えたが、保護者の目標指数がとても低かった。家庭と連携した取り組みが必要である。 ・１１月に目のビジョントレーニングを実施したが、意欲的に取り組む様子が見られたので、来年度も取り入れたい。 ・目の健康を守る３か条のポスターを各教室に掲示し、啓蒙を図った。 ・１月の保健指導でビジョントレーニングを含めた目の健康に関する指導を行った。	・４月の保健だよりや学年だよりに「目の健康を守る３か条」を記載し、目のプロジェクトを保護者にも知らせる。 ・ビジョントレーニングの回数を増やし、保健だよりに掲載する。親子講演会でビジョントレーニングが企画できるとよい。 ・低視力者の専門医受診を勧め、自分の目にあった眼鏡等を装着するよう指導を強化する。 ・委員会活動を充実させ、目の体操（目のリフレッシュタイム）の継続をする。
			目の体操に意欲的に取り組んでいる （成果指標）	生徒	80%	○91%		
			子どもは、生活の中で視力が低下しないように気をつけて行動していると思う （満足度指標）	保護者	70%	▼35%		
		⑭目標を持って健全に取り組む部活動を推進する	部活動において生徒が意欲的に取り組めるような指導を実践している （取組指標）	教職員	90%	▼89%	・部活動に熱心に取り組む生徒が多く、また、礼儀面でもよくなってきている。 ・リーダー研修会が十分できなかった。 ・今年度２回、スポーツ医・科学講習会を行った。ストレッチや傷害に関することと、メンタルについて行ったが、メンタルに関しては指導者向きで生徒には難しい面もあった。	・年度当初に、リーダー研修会を行い、全体としての目標を伝え、それぞれの部活動でさらに細かな目標を立てさせたい。定期的に行い、それぞれの活動の報告や問題点などを話し合わせたい。 ・講習会については、夏の大会に活かせられるよう、５月ぐらいにストレッチや傷害について、６月ぐらいにメンタルについて行いたい。
			部活動に意欲的に取り組んでいる （成果指標）	生徒	90%	92%		
			子どもは部活動に意欲的に取り組んでいる （満足度指標）	保護者	80%	○94%		

【家庭・地域・学校協議会で協議されたことの概要】

・生徒のよく頑張っている様子が伝わってくる。サッカー部や美術部が県レベルで素晴らしい成果を残すことができたのも良かった。
・自分用のスマートフォンを所持する生徒が増えている。利用時間も徐々に長くなっているようだ。テレビを見たり読書したりすることが少なくなり、動画を見たりＳＮＳをしたりすることが増えている。読書量が少ないのはこのようなことも背景にあるのではないだろうか。大人もスマートフォンで小説を読んだり、情報を入手したりすることがあたり前になり、新聞や雑誌にふれる機会が減っている。しかし、紙の文化には、スマートフォンにはない「よさ」がある。読書活動で生徒に刺激を与えることにより、活字にふれる機会を増やしてほしい。
・体験活動の導入により、たいへんよい成果が出ている。今後も体験活動を継続することで、ふるさとを愛し、新たな活力を生み出すような人材が育つよう、家庭と地域と学校が協力して取り組んでいきたい。

◎アンケートにご協力いただきありがとうございました。来年度への参考にさせていただきます。